

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 函館市の結果概要

1 調査の内容

(1) 調査の目的

子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

また、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年

国・公・私立学校の以下の学年を原則とした全児童生徒を対象に調査

- ・小学校、義務教育学校前期課程および特別支援学校小学部第5学年の全児童
- ・中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程および特別支援学校中学部第2学年の全生徒

(3) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

測定方法等は新体力テストと同様

[小学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

[中学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）、

20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、

ハンドボール投げ

※ 持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

イ 質問紙調査 生活習慣、食習慣、運動習慣に関する質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導および特別活動等に関する質問紙調査

(4) 調査の方法

悉皆調査

(5) 調査実施期間

令和7年4月から7月末まで

(6) 調査学校数および児童生徒数（公立学校）

	参加小学校数	児童数	参加中学校数	生徒数
全国	18,438	913,144	9,430	816,548
北海道	935	34,809	576	32,922
函館市	39	1,324	19	1,283

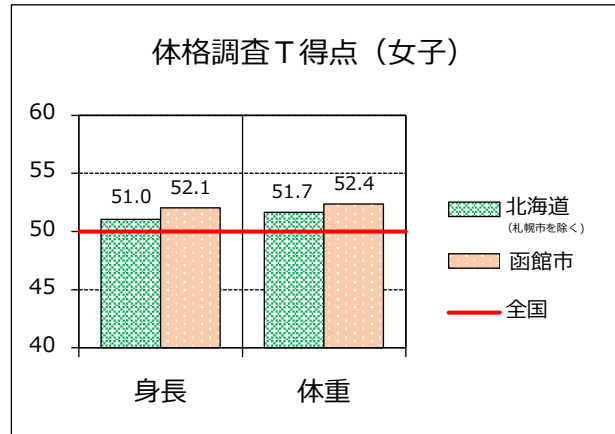
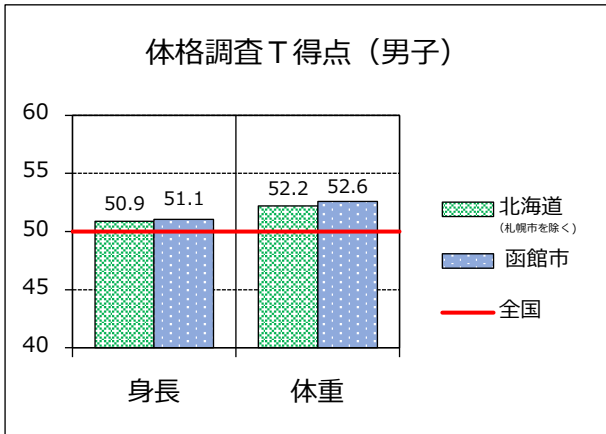
(7) 結果の概要

① 体格について

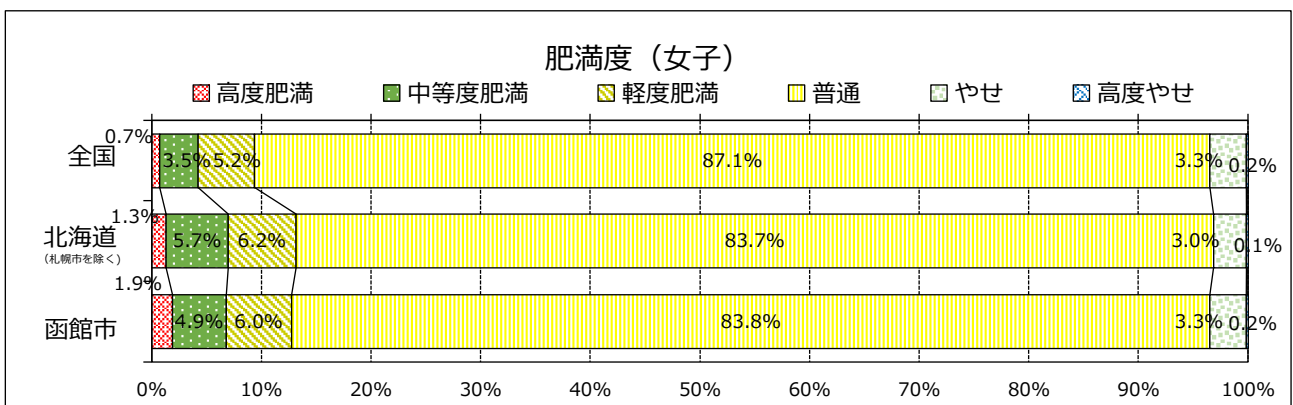
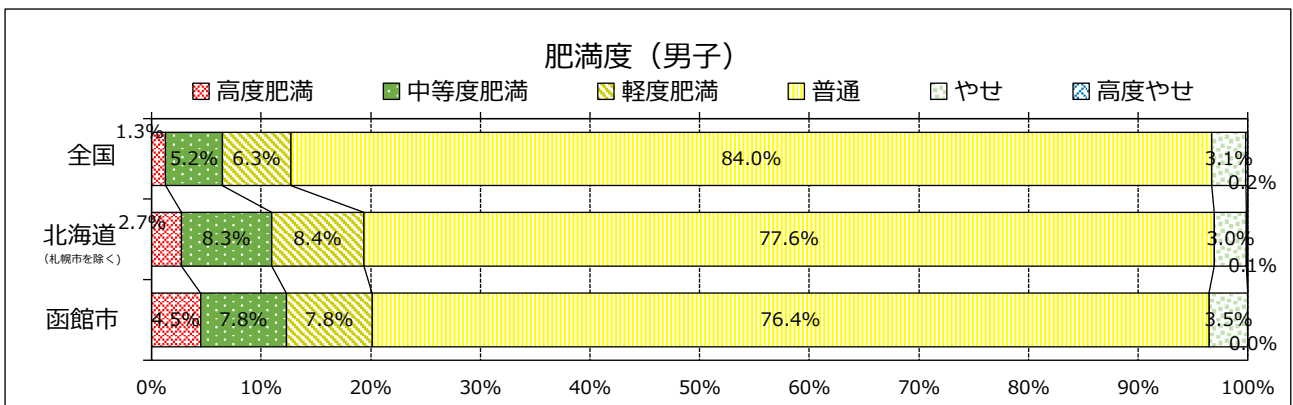
T得点とは、全国平均値（50点）に対する相対的な位置を示しています。

【小学校】

〈身長・体重〉

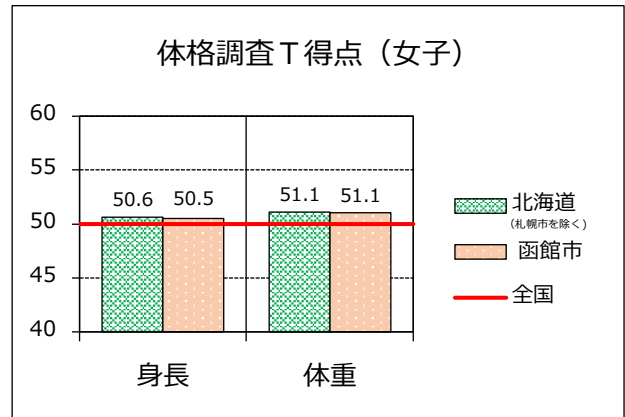
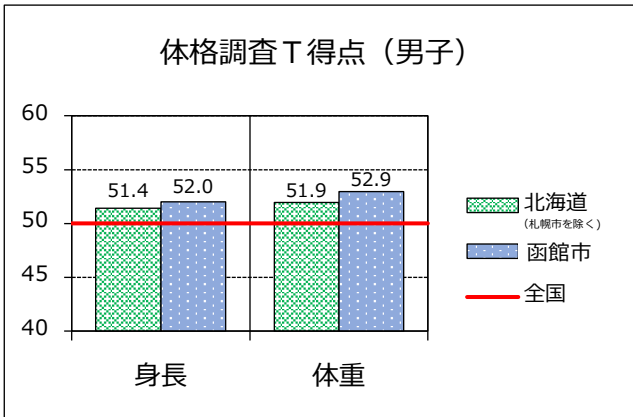


〈肥満度〉

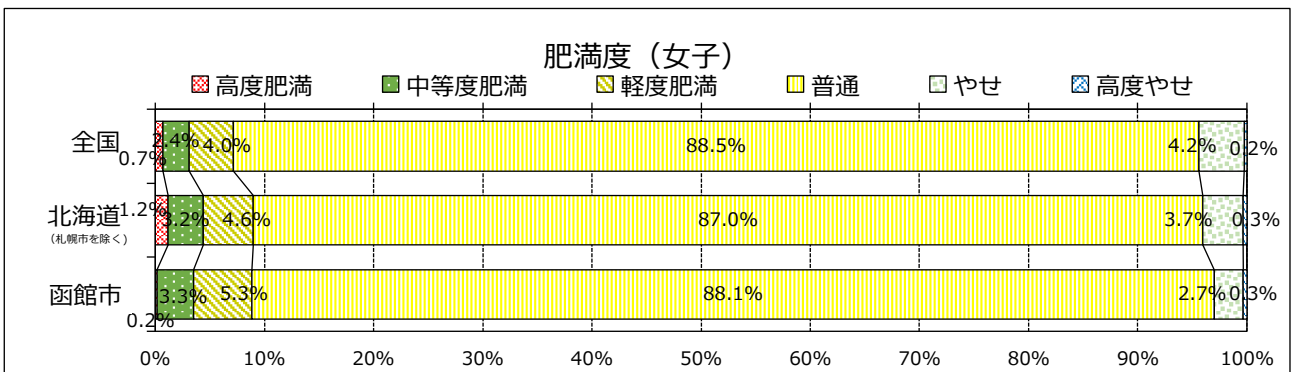
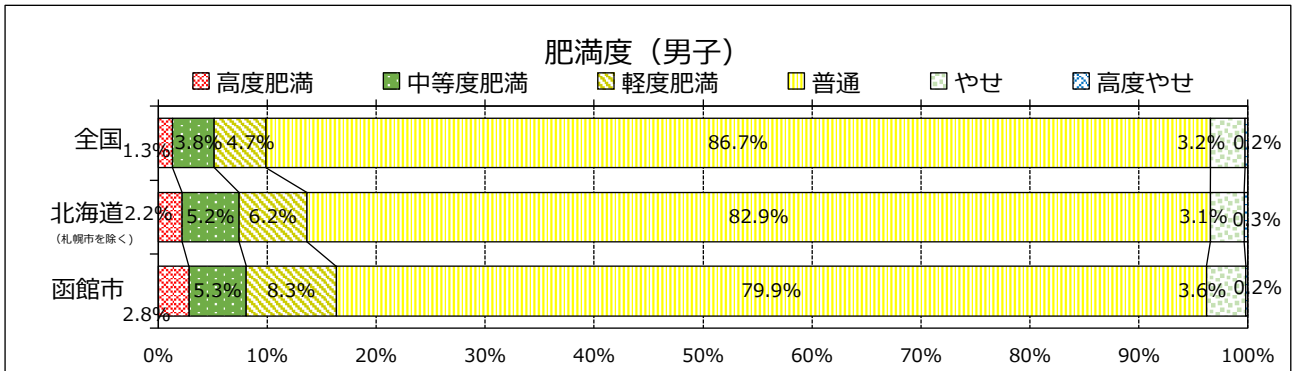


【中学校】

〈身長・体重〉



〈肥満度〉



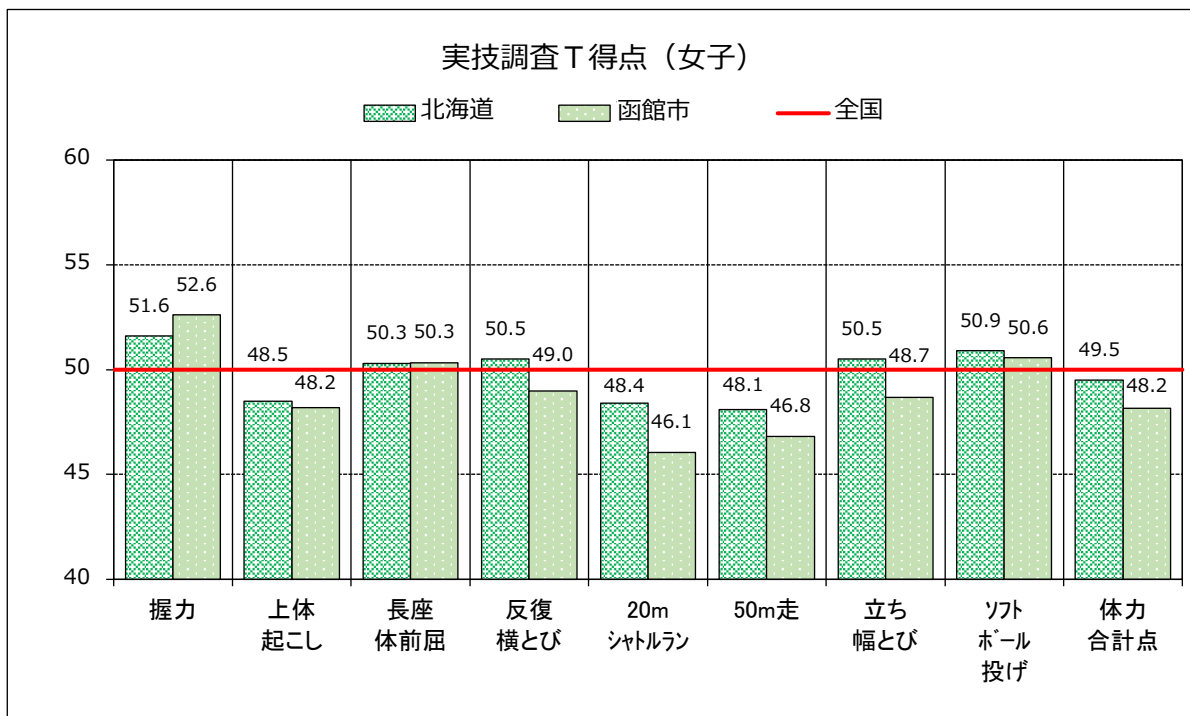
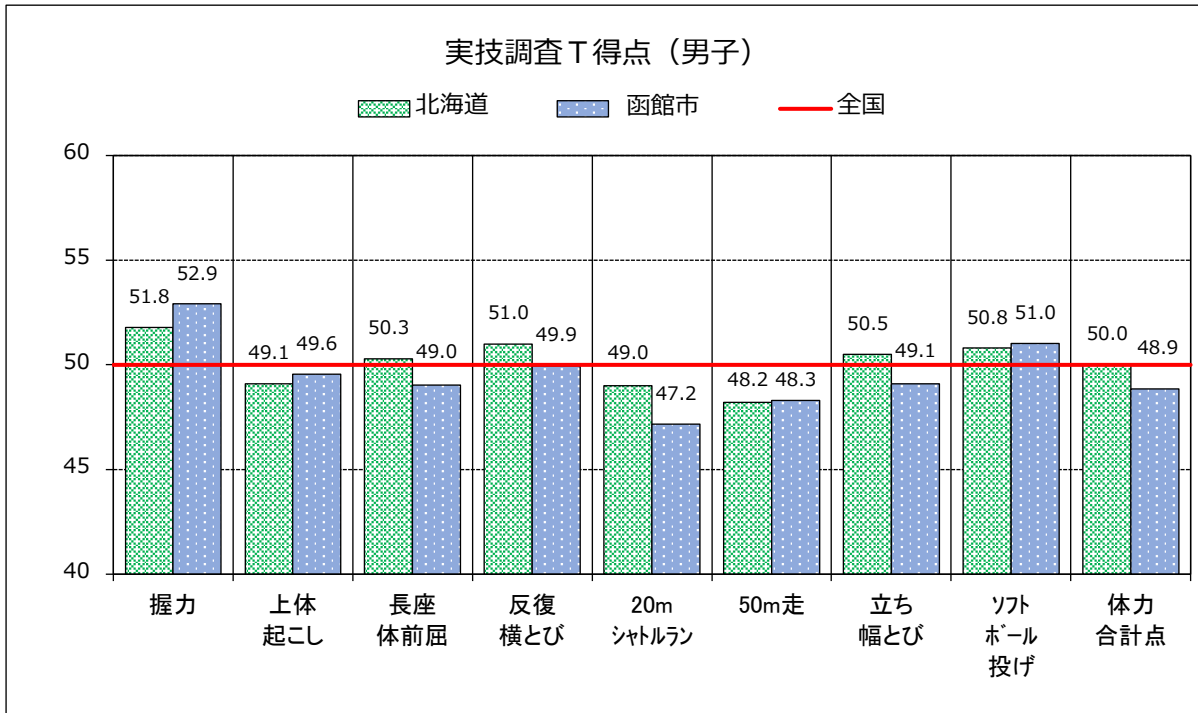
② 実技に関する調査

T得点とは、全国平均値（50点）に対する相対的な位置を示しています。

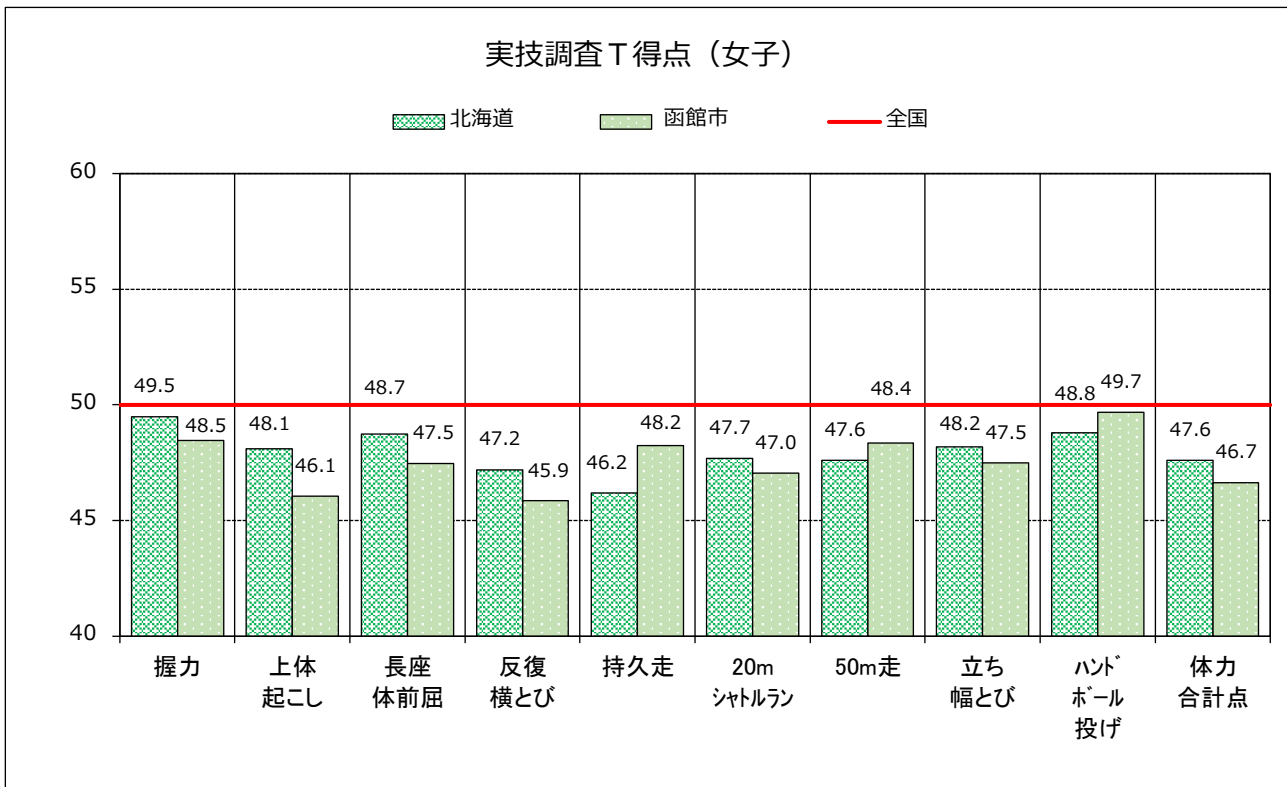
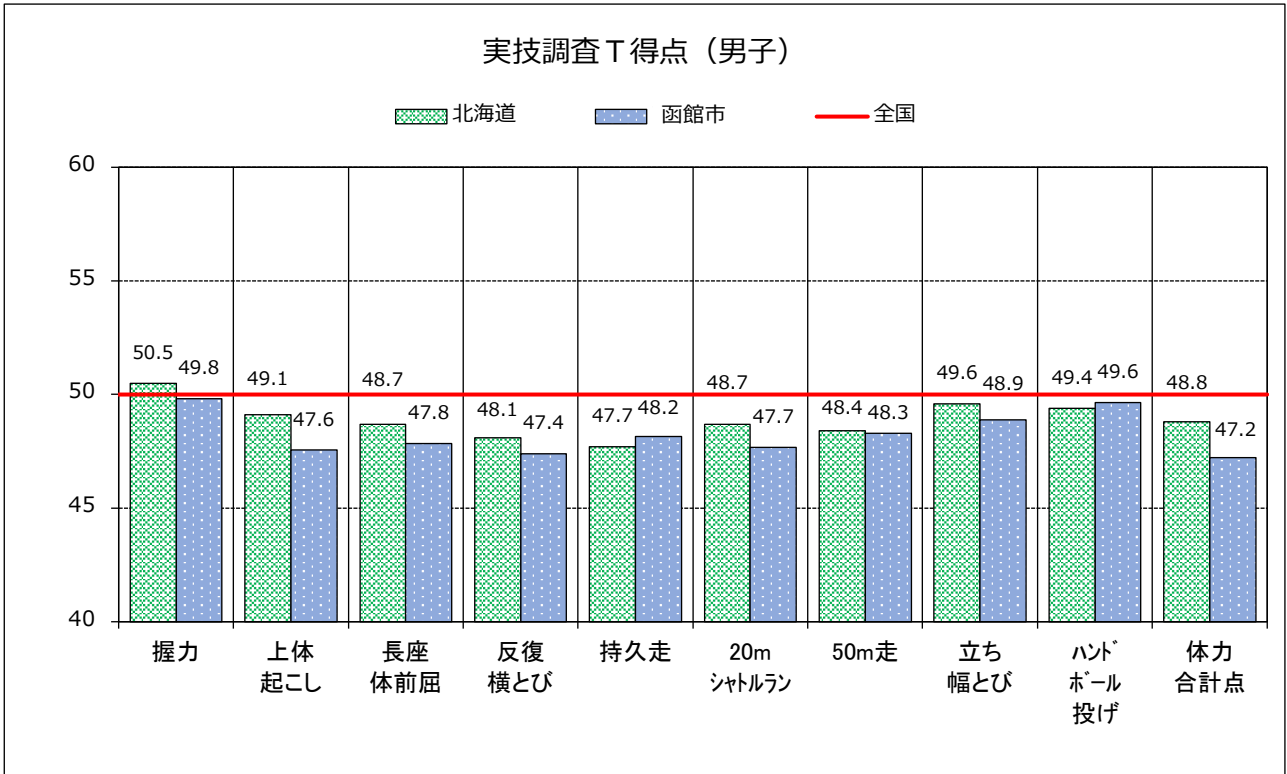
【体力合計点（T得点）】

	男子	女子
函館市小学校	48.9	48.2
函館市中学校	47.2	46.7

【小学校】



【中学校】



③ 質問紙調査 ※ () 内は、全国平均との比較
ア 運動習慣等について

	小学校 男子	小学校 女子	中学校 男子	中学校 女子
「運動が好き」と回答した割合 (%)	73.9 (+1.2)	55.7 (+1.6)	69.7 (+3.3)	44.4 (+1.4)
「朝食を毎日食べる」と回答した割合 (%)	73.6 (-8.9)	71.7 (-8.7)	74.8 (-7.1)	66.5 (-7.9)
「毎日8時間以上寝る」と回答した割合 (%)	71.3 (-0.5)	71.7 (-2.1)	39.1 (+0.9)	30.8 (+2.5)
平日TV, ゲーム, スマホ等の視聴時間が3時間以上と回答した割合 (%)	52.7 (+10.0)	46.4 (+9.0)	61.6 (+10.8)	64.0 (+13.7)
(小) 地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団や習い事を含む) (中) 学校の運動部に所属している割合 (%)	56.3 (-8.1)	40.9 (-7.9)	61.8 (-5.8)	39.6 (-13.1)
1週間の総運動時間(分)	584.1 (+60.0)	343.7 (+27.9)	724.2 (-34.3)	444.2 (-76.1)

イ 体育・保健体育の授業について

	小学校 男子	小学校 女子	中学校 男子	中学校 女子
「体育(保健体育)の授業が楽しい」と回答した割合 (%)	69.3 (-4.4)	52.5 (-4.4)	56.3 (-0.5)	39.0 (+1.0)
「体育(保健体育)の授業で進んで学習に参加している」と回答した割合 (%)	54.9 (-4.7)	45.3 (-5.4)	42.4 (-4.8)	29.0 (-8.2)
「体育(保健体育)の授業でねらいを意識することで、できたり、わかったりすることがいつもある」と回答した割合 (%)	29.1 (-3.8)	18.4 (-5.0)	25.7 (-6.1)	17.7 (-4.4)
「体育(保健体育)の授業で、友達と助け合ったり教え合ったりすることで、できたり、わかったりすることがいつもある」と回答した割合 (%)	33.9 (-4.1)	31.7 (-2.5)	31.6 (-6.3)	26.3 (-3.9)
「ICTを使った学習でできたり、わかったりすることがいつもある」と回答した割合 (%)	19.1 (-4.0)	14.6 (-2.6)	19.5 (-7.3)	14.4 (-3.3)

2 体力向上の取組について

【今後の対策】

・「運動が好き」と回答した児童生徒数は全国平均と比較して多い一方で、「体育（保健体育）の授業が楽しい」と回答した児童生徒数は全国平均と比較して少ないことから、体育の授業のさらなる質の向上が求められる。今後も1人1台端末を効果的に活用し、模範となる動きを繰り返し視聴したり、自分の動きを動画で振り返ったりするなど、児童生徒一人ひとりの課題や理解に応じた個別最適な学びの充実を図るとともに、友達との対話や意見交流を通して考えを深める協働的な学びを大切に、両者を一体的に推進することで、児童生徒が「できないことができるようになった」経験を積み重ねられる、より質の高い授業づくりを進めていく必要がある。

・朝食の摂取をはじめとする基本的な生活習慣や日常的な運動習慣は、体力向上の基盤となる重要な要素であることから、学校において体育・健康に関する指導の充実を図るとともに、学校・家庭・地域・行政が連携しながら、生活習慣の改善と運動習慣の定着に向けた取組を一体的に進めていく必要がある。